

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	埼玉工業大学
設置者名	学校法人智香寺学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
工学部	機械工学科	夜・通信	2	4	16	22	13	
	生命環境化学科	夜・通信			38	44	13	
	情報システム学科	夜・通信			40	46	13	
人間社会学部	情報社会学科	夜・通信	16		46	64	13	
	心理学科	夜・通信			26	44	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

●ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/disclose/shugakushien/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	埼玉工業大学
設置者名	学校法人智香寺学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>●ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/disclose/shugakushien/</p>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(宗)本誓寺代表役員	2019.7.20～ 2022.7.19	ハラスメント等人権
非常勤	(宗)生蓮寺代表役員	2019.7.20～ 2022.7.19	ハラスメント等人権
非常勤	(宗)浄土院代表役員	2019.7.20～ 2022.7.19	教育研究
非常勤	(学)明照学園理事長	2019.7.20～ 2022.7.19	教育研究
非常勤	(宗)浄信寺代表役員	2019.7.20～ 2022.7.19	財務
非常勤	弁護士	2019.7.20～ 2022.7.19	コンプライアンス
非常勤	(宗)十連寺代表役員	2019.7.20～ 2022.7.19	財務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	埼玉工業大学
設置者名	学校法人智香寺学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>工学部、人間社会学部の両学部において開講されているすべての科目について、概要、授業方針、学習内容(授業スケジュール)、準備学習、学習到達目標、関連科目、受講要件、履修上の注意、レポート、達成度評価基準、成績評価方法、授業評価アンケート等を記載したシラバスを作成している。各事項の記載内容は、全学共通のシラバス作成ガイドラインを基準としており、授業で使用する教科書や参考文献、準備学習に必要な時間数等についてもシラバス内に明記している。</p> <p>全教員が作成した授業計画書(シラバス)については、全学共通のシラバス作成ガイドラインに基づき、第三者(各学科等の教務委員)による記載内容の確認を行い、ガイドラインに基づいていないと判断したものについては、個別に修正を依頼している。</p> <p>授業計画書(シラバス)の確認終了後、4月上旬には学生に LiveCampus 上で公開し、その後5月下旬には下記のアドレスで、より広く一般に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>●ホームページによる公表</p> <p>https://www.sit.ac.jp/zaigakusei/result/syllabus/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

工学部の講義科目では、小テストや中間試験、レポートなどを課して理解度や学修意欲を把握するとともに学期末の定期試験の結果を加味して成績を評価し、単位認定を行っている。

実験実習科目では、原則としてすべての実験実習テーマへの参加と各テーマのレポートの提出を義務付けている。レポートの内容が不備な場合は単位の認定を行わず、翌年度以降に再履修させている。

演習科目では、適当な数の演習問題を解かせ、レポートとして提出させている。正解数に基づく成績評価点が基準を満たした場合に単位の認定を行っている。

卒業研究では、定期的に研究報告書を提出させたり、進捗状況を適宜発表させたりすることにより卒業研究への取り組み状況を把握している。学年末には卒業研究論文および論文要旨の提出を課し、さらに卒業研究発表会での発表を義務付けている。これらの条件を満たした場合に卒業研究の単位認定を行っている。

人間社会学部の講義科目では、複数回の小テストや中間試験、レポート課題などを課して理解度、学修意欲を把握するとともに、学期末に実施する定期試験の結果を加味して成績評価を行なっている。最終的な学修成果は、シラバスに明記している「評価方法」の配分に従い評価し、各科目の「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。

演習科目では、レポート課題や定期試験、一定時間を要する制作課題を課すことで、理解度の把握と成績評価を行い、「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。

4年次の卒業研究では、全員に卒業研究題目届、卒業研究（制作・論文）提出を義務付け、学年末の卒業研究発表会を組織的かつ厳格に行っている。さらに定期的な進捗報告と報告書の提出によって卒業研究の取り組み状況を把握している。これらの条件を満たした場合に卒業研究の単位認定を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、下記1に示す教科ごとに算出された素点 GP から、下記2に示す GPA を求めている。算出方法は大学ホームページで公開している。

1. 素点 GP の計算式

- ① 60 点以上 $GP=0.075 \times \text{素点} - 3.5$
- ② 60 点未満 $GP=\text{素点}/60$
- ③ 未受験科目は GP を付加しない

2. GPA 計算式

$$GPA = \frac{\sum(\text{成績 S, A, B, C, D の科目の GP} \times \text{単位数})}{\text{成績 S, A, B, C, D の科目の総単位数}}$$

ただし、

- ① 未受験科目（評価 F）、認定 N・G、合格 P の成績がついた科目、進級卒業要件に含まれない教職科目、自由単位指定科目は GPA 計算に考慮しない。
- ② 小数点以下第 5 位を四捨五入する。
- ③ 再試験の受験者は再試験の点数(0 点～7.9 点)で GP 計算し GPA 計算に考慮する。再試験未受験の場合は定期試験の成績を最終とする。
- ④ 読替科目は、基本的に読替後科目を計算する。

学生は、自分の GPA を Web 上の LiveCampus で確認することができ、これまでに履修した全科目の GP の分布も確認することができる。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	●ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/disclose/shugakushien/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>両学部とも、全学科において卒業までに何を学び、何を修得しなければならないかをディプロマ・ポリシーとして定めており、内容は学生便覧および大学のホームページで公開している。各学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき各学年に適切な科目を配置するとともに、学則および各学部の履修細則に規定する卒業条件を満たした場合に卒業を認定している。各学部の履修細則は学生便覧および大学のホームページで公開している。</p> <p>卒業条件を満たしたかどうかの判定は、各学科の進級卒業判定会議において教務課が作成した成績資料に基づき、学生一人一人に対して行い、各学部の教授会において承認を行っている。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ディプロマ・ポリシーの公開先 (2022 年度) 2. 学則の公開先 (2022 年度) 3. 履修細則の公開先 (2022 年度) <p>●ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/disclose/shugakushien/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	埼玉工業大学
設置者名	学校法人智香寺学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	●ホームページによる公表 (https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/)
収支計算書又は損益計算書	●ホームページによる公表 (https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/)
財産目録	●ホームページによる公表 (https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/)
事業報告書	●ホームページによる公表 (https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/)
監事による監査報告(書)	●ホームページによる公表 (https://www.sit.ac.jp/gakuen/zaimu/)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ●ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/gaiyou/hyouka/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部、人間社会学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページによる公表） https://www.sit.ac.jp/media-s/gakuseiseikatsu/kyoumu/binran/2022_engbinran_13.pdf （概要） 学則第1条に以下のとおり掲載している。 第1条 埼玉工業大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、学術を中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、仏教精神により個性豊かにして教養ある社会人を育成することに努め、もって人類の平和と福祉に貢献し、かつ、我が国の文化及び産業の発展に寄与することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページによる公表） https://www.sit.ac.jp/information/disclose/shugakushien/ （概要） 両学部とも、全学科において卒業までに何を学び、何を修得しなければならないかをディプロマ・ポリシーとして定めており、内容は学生便覧および大学のホームページで公開している。各学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき各学年に適切な科目を配置するとともに、学則および各学部の履修細則に規定する卒業条件を満たした場合に卒業を認定している。各学部の履修細則は学生便覧および大学のホームページで公開している。 卒業条件を満たしたかどうかの判定は、各学科の進級卒業判定会議において教務課が作成した成績資料に基づき、学生一人一人に対して行い、各学部の教授会において承認を行っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページによる公表） 工学部： https://www.sit.ac.jp/media-s/gakuseiseikatsu/kyoumu/binran/2022_engbinran_2.pdf 人間社会学部： https://www.sit.ac.jp/media-s/gakuseiseikatsu/kyoumu/binran/2022_humbinran_2.pdf （概要） カリキュラムポリシー（CP）として公表している。 工学部：21世紀のキーテクノロジーである、機械・ロボット、バイオ・環境、応用化学、IT・AI・電気電子などのスペシャリストを育成するため、それぞれの分野で教養科目と専門科目、および講義科目と実験・実習・演習などの体験型科目といった科目間のバランスを配慮したカリキュラム体系の下、基礎から応用にいたるまで十分な知識を教授する。 人間社会学部：情報社会学科では、経営学を中心に、情報、法律、経済を総合的に学ぶ経営システム専攻と、コンピュータ・グラフィックスやコンピュータ・ミュージックなどのデジタルメディアに関する知識や技能、背景となる文化や思想を総合的に学ぶメディア文化専攻の2つの専攻を設けています。 心理学科では、ビジネス心理専攻と臨床心理専攻の両専攻において、それぞれ体系的で段階的なカリキュラムが編成されています。臨床心理専攻においては、公認心理師となるために必要な科目が配置されています。2つの専攻の4年間を通じての学習・教育目標と授業科目の配置を概観するために、カリキュラムツリーが作成・公開されています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページによる公表） 工学部： https://www.sit.ac.jp/media-s/gakuseiseikatsu/kyoumu/binran/2022_engbinran_2.pdf 人間社会学部： https://www.sit.ac.jp/media-s/gakuseiseikatsu/kyoumu/binran/2022_humbinran_2.pdf

(概要)

アドミッションポリシー（AP）として公表している。

工学部：工学部は機械、生命環境、情報システムの分野で科学技術に対する勉学を志し、自ら積極的に学んだ知識を用いて社会の発展に貢献する希望と意欲をもつ学生を受け入れる。

人間社会学部：情報社会学科は、幅広い教養と知識基盤社会で必要とされる知識・技能を身につけ、それらを主体的に活用して社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。これを実現するために、社会の様々な分野において、自ら課題を発見し解決することを通じて変化の激しい現代社会に対応し、主体的に活動してゆこうとする人を求めています。心理学科では、教育研究上の目的を実現するために、以下のような人材を広く求めています。ビジネス心理専攻では、心理学の専門知識とともにビジネスに関する知識も身につけたい人や、自分や他者の心を客観的に理解する力を仕事や人間関係の中で応用し、他者と協調しながら社会で活躍できるようになりたい人を求めています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページによる公表

https://www.sit.ac.jp/media-s/gakuseiseikatsu/kyoumu/binran/2022_engbinran_13.pdf

学則第2条に以下のとおり掲載している。

第2条 本学に次の組織を置く。

大学院工学研究科

博士前期課程 機械工学専攻 生命環境化学専攻 情報システム専攻

博士後期課程 機械工学専攻 生命環境化学専攻 情報システム専攻

大学院人間社会研究科

修士課程 情報社会専攻 心理学専攻

工学部

機械工学科 生命環境化学科 情報システム学科

人間社会学部

情報社会学科 心理学科

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人					—	3人
工学部	—	31人	10人	4人	1人	0人	46人
人間社会学部	—	13人	5人	2人	0人	0人	20人
付属研究所	—	1人					1人
その他	—	1人			2人		3人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				163人			163人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページによる公表 https://www.sit.ac.jp/information/disclose/kyouin/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	360人	389人	108%	1440人	1731人	120.2%	若干名	4人
人間社会学部	140人	164人	117.1%	560人	661人	118%	若干名	2人
合計	500人	553人	110.6%	2000人	2392人	119.6%	若干名	6人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	320人 (100%)	21人 (6.56%)	260人 (81.2%)	39人 (12.1%)
人間社会学部	133人 (100%)	5人 (3.75%)	107人 (80.4%)	21人 (15.7%)
合計	453人 (100%)	26人 (5.73%)	367人 (81%)	60人 (13.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>工学部、人間社会学部の両学部において開講されているすべての科目について、概要、授業方針、学習内容(授業スケジュール)、準備学習、学習到達目標、関連科目、受講要件、履修上の注意、レポート、達成度評価基準、成績評価方法、授業評価アンケート等を記載したシラバスを作成している。</p> <p>各事項の記載内容は、全学共通のシラバス作成ガイドラインを基準としており、授業で使用する教科書や参考文献、準備学習に必要な時間数等についてもシラバス内に明記している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>工学部の講義科目では、小テストや中間試験、レポートなどを課して理解度や学修意欲を把握するとともに学期末の定期試験の結果を加味して成績を評価し、単位認定を行っている。</p> <p>実験実習科目では、原則としてすべての実験実習テーマへの参加と各テーマのレポートの提出を義務付けている。レポートの内容が不備な場合は単位の認定を行わず、翌年度以降に再履修させている。</p> <p>演習科目では、適当な数の演習問題を解かせ、レポートとして提出させている。正解数に基づく成績評価点が基準を満たした場合に単位の認定を行っている。</p> <p>卒業研究では、定期的に研究報告書を提出させたり、進捗状況を適宜発表させたりすることにより卒業研究への取り組み状況を把握している。学年末には卒業研究論文および論文要旨の提出を課し、さらに卒業研究発表会での発表を義務付けている。これらの条件を満たした場合に卒業研究の単位認定を行っている。</p> <p>人間社会学部の講義科目では、複数回の小テストや中間試験、レポート課題などを課して理解度、学修意欲を把握するとともに、学期末に実施する定期試験の結果を加味して成績評価を行なっている。最終的な学修成果は、シラバスに明記している「評価方法」の配分に従い評価し、各科目の「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。</p> <p>演習科目では、レポート課題や定期試験、一定時間を要する制作課題を課すことで、理解度の把握と成績評価を行い、「達成度評価基準」を満たした場合に単位認定を行っている。</p> <p>4年次の卒業研究では、全員に卒業研究題目届、卒業研究(制作・論文)提出を義務付け、学年末の卒業研究発表会を組織的かつ厳格に行っている。さらに定期的な進捗報告と報告書の提出によって卒業研究の取り組み状況を把握している。これらの条件を満たした場合に卒業研究の単位認定を行っている。</p>

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	機械工学科	124 単位	有・無	単位
	生命環境化学科	124 単位	有・無	単位
	情報システム学科	124 単位	有・無	単位
人間社会学部	情報社会学科	124 単位	有・無	単位
	心理学科	124 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：●ホームページによる公表

<https://www.sit.ac.jp/information/disclose/kyouin/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部	機械工学科／生命環境化学科／ 情報システム学科 1 年次	820,000 円	250,000 円	470,000 円	施設設備費
	機械工学科／生命環境化学科 2 年次	820,000 円	250,000 円	470,000 円	施設設備費
	情報システム学科 2 年次	820,000 円	250,000 円	520,000 円	施設設備費
	機械工学科／生命環境化学科 3 年次	850,000 円	250,000 円	470,000 円	施設設備費
	情報システム学科 3 年次	850,000 円	250,000 円	520,000 円	施設設備費
	機械工学科／生命環境化学科／ 情報システム学科 4 年次	850,000 円	250,000 円	570,000 円	施設設備費 卒業研究費
人間社会 学部	情報社会学科／心理学科 1 年次	720,000 円	250,000 円	270,000 円	施設設備費
	情報社会学科 2 年次	720,000 円	250,000 円	270,000 円	施設設備費
	情報社会学科 3・4 年次	750,000 円	250,000 円	270,000 円	施設設備費
	心理学科 2 年次	720,000 円	250,000 円	320,000 円	施設設備費
	心理学科 3・4 年次	750,000 円	250,000 円	320,000 円	施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の能力に応じた補習教育、補充教育は、学生への学習支援を目的として、図書館 1 階に学習支援センターを開設して実施している。ここでは、専任教員及び専任チューターにより日常的に学習相談を行っている。専任チューターが担当する学習相談は、英語、数学、物理、化学、電気、日本語である。 日常の留学生対応は、学生課、留学生支援センターが留学生担当職員を配置して対応している。留学生等の多様な学生に対する学習支援の充実のために、2018 年度後半から学習支援センターに日本語学習を支援する専任チューターを配置した。 障がいのある学生に対する支援について、聴覚障害のある学生に対してノートテイクによる支援を実施している。ボランティアのノートテイクとして近隣市町村の手話サークル等にも支援を依頼し、積極的に学習支援を進めている。また、車椅子を利用する学生から意見を聞き取り、机を各教室の入口近くに移動する等、日常の学習支援についても適宜柔軟に実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生のキャリア支援を行うための体制（キャリアセンターの設置等）の整備として、2012 年度にキャリア支援センターを設置した。専任教員を配置し、就職課、就職委員会、卒業研究指導教員と連携を取りながら、学生一人ひとりの就職支援にあたっている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の悩み事への相談に対しては、学生課職員・学科の学生委員・学生相談室・学習支援センター等さまざまな組織が相互に連携して対応している。近年、うつ病等の心理的疾患を抱えた在学生や新生が増えており、学生相談室を重要な組織として位置づけている。

学生相談室には、専門の学生相談員（臨床心理士）を配置し、学生生活全般、家庭生活、人間関係、勉強、進路、将来のことなど、何か心配なことや不安なことに悩んでいることを気軽に相談することができる体制としている。

学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮として、学生の健康管理を目的に学校保健安全法に基づく健康診断を実施している。新生は4月上旬（新生オリエンテーション期間）、在学生は2月上旬に全学生が受診できるように実施日を設定している。健康診断は、校医の指導のもと、深谷市医師会メディカルセンターと学生課の3者が連携し、慎重に進めている。健康診断の結果、病気・病変などが明らかになったときはメディカルセンターから要注意者の報告を受け、学生課が該当学生に病院等で検査するように指導している。なお、日常的なけがや体調不良については、保健室を設置して対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページによる公表

<https://www.sit.ac.jp/information/disclose/kyouin/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	埼玉工業大学
設置者名	学校法人智香寺学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		202人	193人	210人
内 訳	第Ⅰ区分	128人	118人	
	第Ⅱ区分	46人	51人	
	第Ⅲ区分	28人	24人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				210人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	—	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	12人	人	人
(備考) ※取消し理由の重複者が1名あるため、実際の廃止者は12名となる。(日本学生支援機構・適格認定結果報告により)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	—	人	人
計	—	人	人

(備考)

※警告理由の重複者が2名あるため、実際の警告者は8名となる。(日本学生支援機構・適格認定結果報告により)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。